

東京電力(株)福島第一原子力発電所事故に関する第2回現地調査結果について

平成23年 8月 2日

福島県原子力安全対策課

事故の収束に向けた道筋のステップ1の達成状況、ステップ2の進捗状況の確認のため、県と大熊町、双葉町は、事故後2回目となる現地調査を実施しましたが、その結果は下記のとおりです。

記

1 確認状況

- (1) 日時 平成23年8月1日(月) 午前11時30分～午後3時50分
- (2) 場所 福島第一原子力発電所、Jビレッジ
- (3) 確認者 福島県 小山原子力安全対策課長、黒田原子力センター所長、他3名
大熊町 秋本企画調整課長、他1名
双葉町 平岩企画課原子力対策係長、他1名

2 確認結果

- 4月17日に東京電力が公表した「事故の収束に向けた道筋」(工程表)について、ステップ1の達成、ステップ2の進捗等を、これまでに稼働した設備等の状況を中心に確認した。
 - ・ 免震重要棟(緊急時対策本部、医務室、個人線量計の貸出所)
 - ・ 5、6号機サービス建屋(救急医療室、電源盤設備の津波被災)
 - ・ 5号機タービン建屋(湿分分離器の地震被害、地下滞留水の状況)
 - ・ 4号機使用済燃料プール代替循環冷却装置(4号機原子炉建屋西側)
- 個人被ばく線量のバーコード管理システムや、熱中症対策として休憩室等の設置や医師の24時間常駐など、作業環境の改善の取組みを確認した。
- 4号機燃料プールの循環冷却装置の稼働、防波堤の嵩上げ工事など、工程表は概ね順調に進捗している。
- ただし、5・6号機では建屋内への地下水の浸透が続いているなど、増加する滞留水の処理及び保管が課題となっていることから、対策の着実な実施を事業者に求めた。



緊急時対策本部に設置された注
水設備等の監視モニター
(免震重要棟)



個人線量計の貸出所
(免震需要棟)



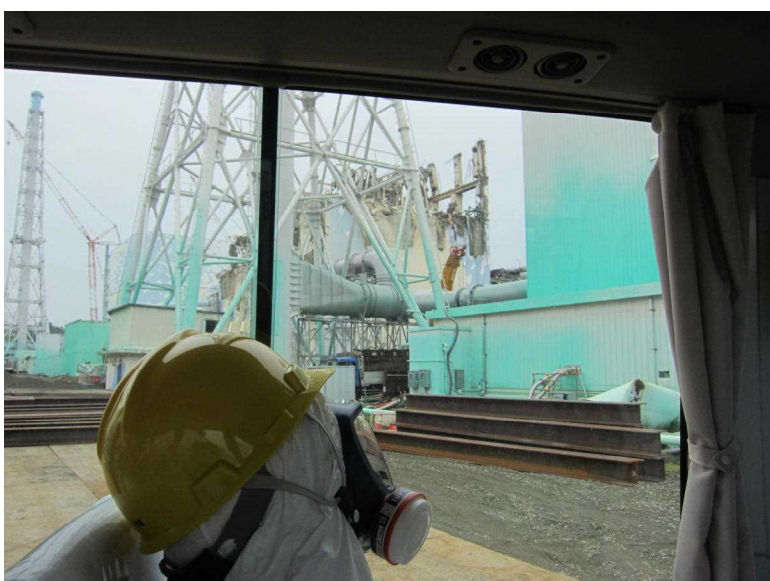
救急医務室、常勤医師
(5・6号機サービス建屋)



5号機湿分分離器の地震被害：
保温材の剥離、落下
(5号機タービン建屋地下)



5号機タービン建屋の地下滞留水
(5号機タービン建屋地下)



1～4号機
(排気筒の奥は3号機)